子どもたちが、ポルトガル語を忘れないよう「ポルトガル語教室」を開催

ブラジル友の会

ポルトガル語教室

日本での共生をサポートするブラジル友の会が、毎週土曜日と日曜日に上古井公民館で、「ポルトガル語教室」を開催しています。

まったくポルトガル語を話せなかった子が、少しずつ話せるようになりました

ブラジル友の会
金城・アリナ・ユキエさん（左）
阿久津・エルザ・サチコさん（右）

日本語が日常の言葉となり、ポルトガル語を忘れてしまった子どもや、日本で生まれてポルトガル語を知らない子どもたちが増えています。

日本での在住外国人の共生をサポートしている「ブラジル友の会」では、子どもたちが、将来ブラジルに帰国しても、言葉に困らないようにと、子どもたちにポルトガル語の基本を教えてみえます。

金城さんが自分の子どもに教えていたのがきっかけで、4年ほど前は4人だったのが、今では45人がこの教室に通っています。

運営にあったている金城さんたちは、すべてボランティアです。

今は、算数を教えてくれる人がいないのが悩みだとか。

ポルトガル語では、最初自分の名前しか、書けませんでした

ラミーノ・ブルーノ君
（5年生）

ボクは美濃市に住んでいますが、あちらにはこうした教室がありません。

最初お父さんの友達に、この教室を教えてもらい通うようになりました。教室がある土曜日は、朝車で送ってもらい、午後の授業までいます。2歳の時から日本に来ています。家ではポルトガル語で話しますが、友達と話すときは日本語が多いです。

ポルトガル語では、自分の名前しか書けなかったけど、この教室に通いポルトガル語が分かるようになってきました。

ポルトガル語が、分かるようになってきました

本名（ほんな）・ジェシカ・ミキさん
（蜂屋小学校5年生）

日本で生まれてからずっといます。家でも、日本語で話すことが多いです。

この教室には4年生の時から通っています。ブラジルには、3回ほど帰国していますが、広い国だと感じました。

ポルトガル語が分かるようになってきました。

注）このページは、広報コミュニティ係が担当しました